RAD-R script

Ver20201203

Manual (Japanese)

Raw sequence reads to linkage map construction

1. 生シーケンスリード (.fastq.gz) が保存されているフォルダーを指定する。 外付けHDDのフォルダーでも問題ない。 最後に「/」をつけない!

> 2. 解析結果を保存するsaveフォルダーを指定する。 外付けHDDより内蔵HDDで行った方が解析が速くなる。 最後に「/」をつける!

Raw data folder (.fastq.gz files)

C:/NGS/Raw_sequence_reads

Save folder (fasta,tagcount files)

exp) D:/20151218_NGS1 ←No "/"

exp) D:/20151218_NGS1/save/ ←With "/"

R_package install script

installpackages("data.table")
installpackages("ABHgenotypeR")
installpackages("qtl")
source("https://bioconductor.org/biocLite.R")
biocLite("Biostrings")
biocLite("ShortRead")

3. 必要なpackageをRにインストールする。 1行ずつRのコンソールにコピペする。

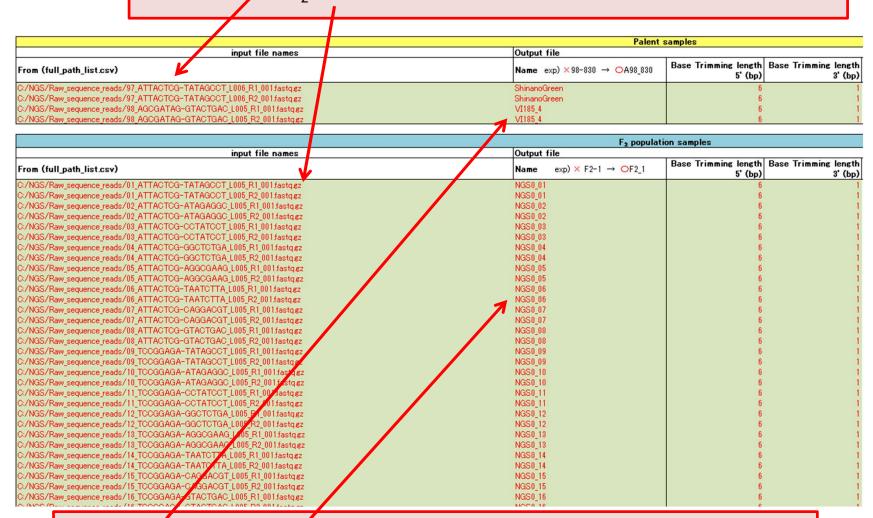
biocLite("QuasR") Full_path script

fullpath <- list files("C:/NGS/Raw_sequence_reads", full names=T) fullpath

write.csv(fullpath, "C:/NGS/save/full path list.csv")

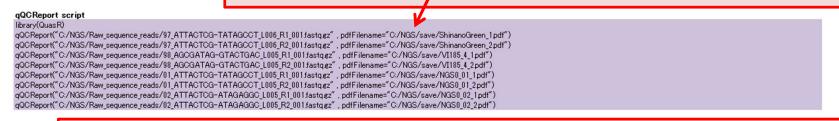
4. 解析したいファイルのpathを調べるため、Full_path scriptをRのコンソールにコピペする。

5. saveフォルダーにできた「full_path_list.csv」を開いて、 集団の親とF₂世代の各個体のフルパスを緑セルにコピペする。

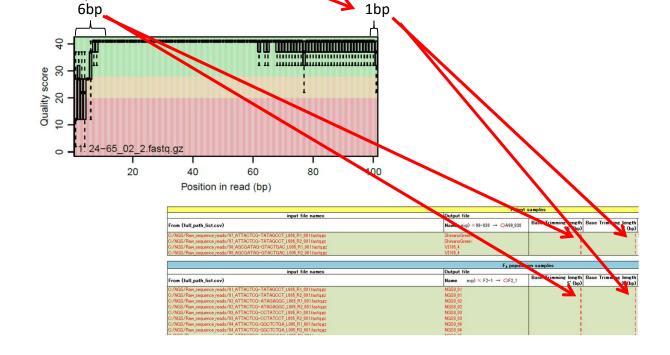


6. 集団の親と F_2 世代の各個体の名前を入れる。"-(ハイフン)"はエラーが出るので"_(アンダーバー)"を使う。名前の先頭は文字にする。

7. 集団の親と F_2 世代の数個体のシーケンスクオリティを調べるため $qQCReport_scriptをRのコンソールにコピペする。$



8. saveフォルダーに出来たPDFを開いてシーケンスクオリティをチェックする。 読み始めと終わりが低クオリティになりがちなのでトリミングする塩基数を指定する。 この数値は全個体で統一しないとマッピングの位置がずれてしまうので注意。 低クオリティなリードがなければの(ゼロ)とする。



9. シーケンスクオリティ(PHRED score)が低い生リードデータを除外する。 デフォルトではPHRED scoreが35以下の塩基を10%以上含むリードを除外する設定。 基本的にはこの設定のままで問題ない。

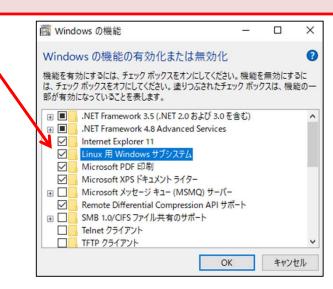
Quality Trimming (minimum PHRED score)
Quality Trimming (acceptable ratio of low PHRED score)
Error corrections of genotype data by Chi-square test (minimum p.value) 0.001
<u></u>

10. カイ二乗検定で分離比が(3:1)からかけ離れているデータ(P < 0.001)を除外する。 基本的にはこの設定のままで問題ない。

11.「スタート」→「設定」で開いたウインドウに 「Windowsの機能の有効化または無効化」と書き込む

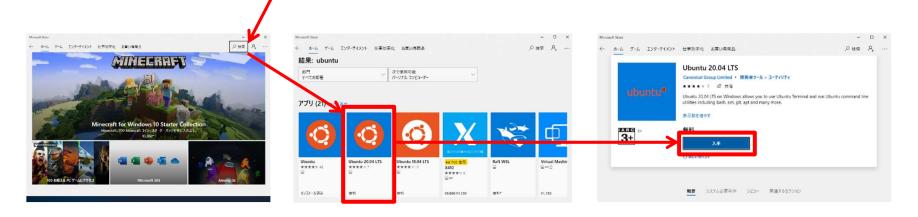


12. ボックスが開いたら「Linux用Windowsサブシステム」に☑を入れて再起動

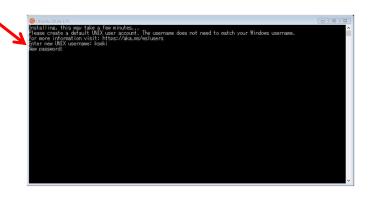


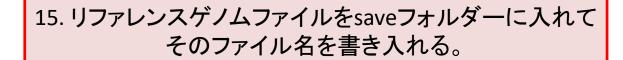
Windows system for Linuxの導入

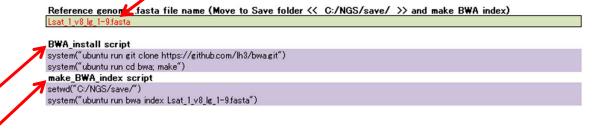
13.「スタート」→「Microsoft Store」で開いたウインドウの右上「検索」に「ubuntu」と書き込む。最新版を選んで「入手」をクリック。 複数のデバイスで使うかどうか聞かれるが、使う必要性はない。



14. ダウンロード完了後に起動するかどうか聞かれるので「起動」をクリック。 しばらくするとuser nameとpasswordを聞かれるので書き込む。 passwordは文字を打ち込んでも見えない。 再度passwordを聞かれるので書き込めば導入完了。

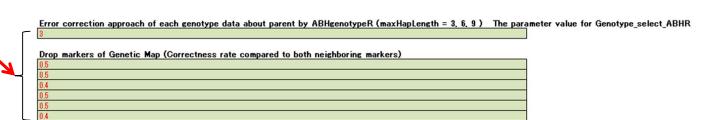




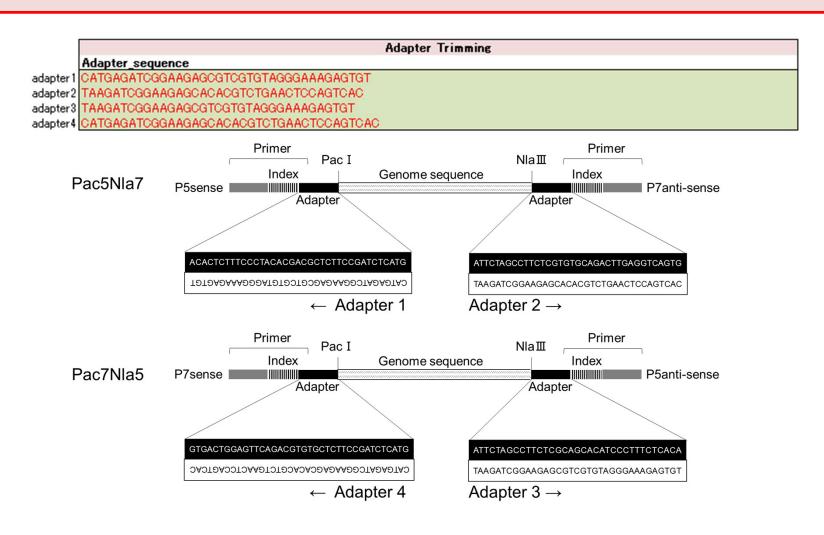


16. Rのコンソールに「BWA_install script」と「make_BWA_index script」をコピペする。

17. Linkage mapの補正に関わる設定、基本的にはそのまま。



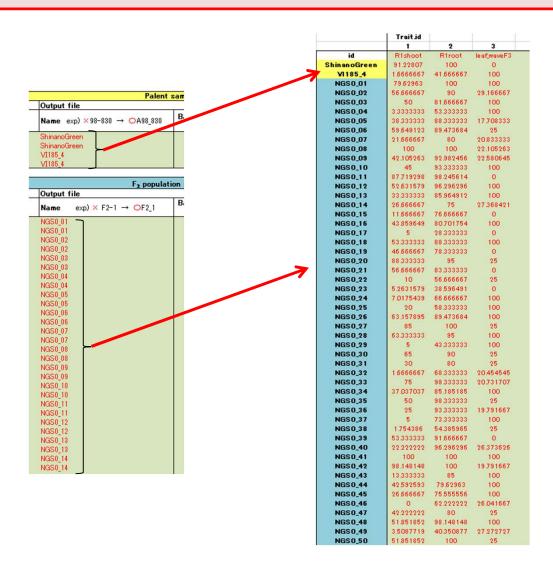
18. ゲノムシーケンスを挟んでいるアダプター配列を生リードシーケンスから除外するため、 ライブラリ作成に用いたアダプター配列を下図を参考にして設定する。 RAD-R scriptでは2パターンのアダプター配列を設定できるようになっているが、1パターンだけでライブラリを作成した場合や、すでにアダプター配列が除外されているデータの場合は「A」「T」「C」「G」などを各40塩基ほど連ねて記入しておく。



2. Input Phenotype data

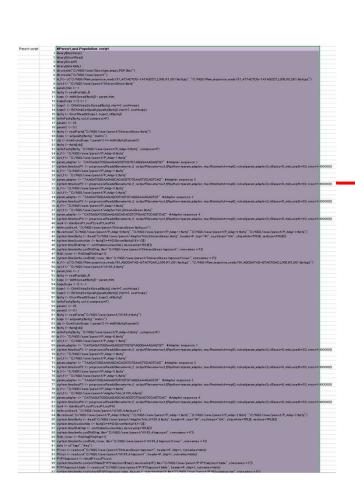
19. 「1. Input and Output files list」と「2. Input Phenotype data」は連携しているので、 個体名は自動的に書き込まれる。

「id」の欄には形質名を入れて、全個体の表現型データを書き入れる。 データがない箇所には"-(ハイフン)"を入れておく。



3. From FASTQ to linkage map

20. 紫のセルを全て選択してコピーし、そのままRのコンソールにペーストする。 Saveフォルダーに色々なファイルが作られ始める。 解析が終了するまで待つ。

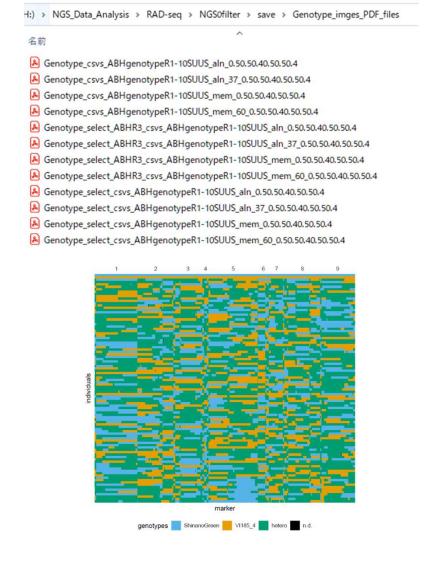




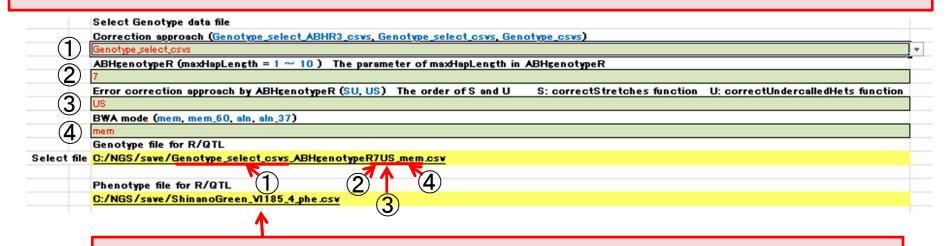
QTL analysis

R/qtl

21. saveフォルダー内にできた「Genotype_images_PDF_files」フォルダーを開く。 12個のPDFファイルに収められたgenotype データのイメージを確認して、 適切に補正されていると思われるデータを選ぶ。



22. 4つの緑セルから名前のパーツを選択してGenotype dataファイルの名前を指定する。 選んだGenotype dataファイルは下の黄色セルに表示される。



- 23. Phenotype data fileはsaveフォルダーに自動で生成される。
- 24. 「Genotype_Freq_and Density script」をRのコンソールにコピペして、saveフォルダーに生成されたPDFファイルを開いてマップの状況を確認する。

```
Genotype_Freq_and_Density script

library(ABHgenotypeR)

pdf("C:/NGS/save/Genotype_select_csvs_ABHgenotypeR7US_mem_AlleleFreq_MarkerDensity.pdf")

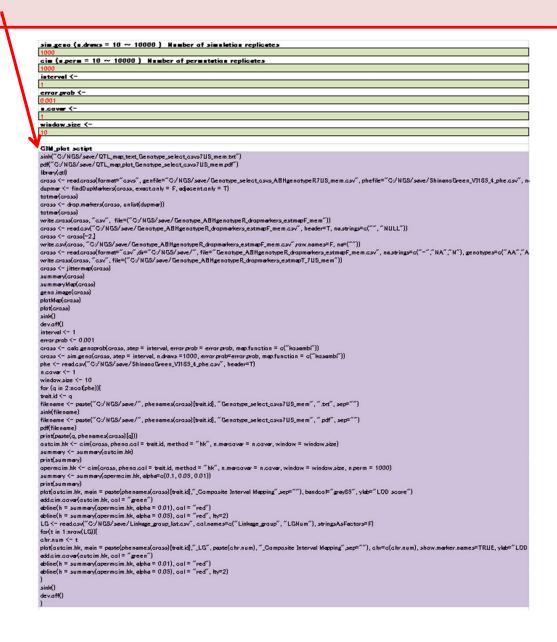
select_genotype <- readABHgenotypes("C:/NGS/save/Genotype_select_csvs_ABHgenotypeR7US_mem.csv", "ShinanoGreen", "V1185_4", readPos=TRUE)

plotAlleleFreq(genos = select_genotype)

plotMarkerDensity(genos = select_genotype)

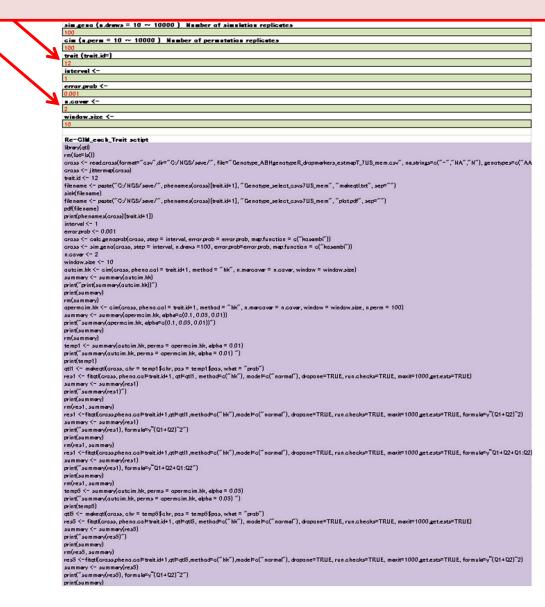
dev.off()
```

25.6つの緑セルの数値はとりあえずそのままで「CIM_plot script」をRのコンソールにコピペする。SaveフォルダーにPDFとテキストのファイルが生成される。



4. QTL

26. 生成されたPDFファイルを確認してピークが確認できた形質については「trait (trait.id)」の緑セルにtrait.idの数値を記入し、「n.cover」の緑セルに検出された有意なピークの数を入れる。「Re-CIM_each_Trait sctipt」をRのコンソールにコピペするとSaveフォルダーにPDFとテキストのファイルが生成される。



4. QTL

27. ピークごとにplot図を描く。連鎖群名とピーク前後のcMを記入して「Re-plot script」をRのコンソールにコピペする。SaveフォルダーにPDFファイルが生成される。

```
chr.ssm <-
3
xlim=c(A,B) From A to B (cM)

175
205

Re-plot script
filename <- paste("C/NGS/save/", phenames(cross)[trait.id+1], "Genotype_select_csvs7US_mem", "plot_chrNum.pdf", sep="")
pdf(filename)
chr.sum <- 3
plot(autcim.hk, main = "Composite Interval Mapping", chr=c(chr.sum), show.marker.names=TRUE, ykb="LOD scare", xlim=c(175.205))
add.cim.covar(autcim.hk, cal = "green")
abline(h = summary(apermacim.hk, abha = 0.01), cal = "red")
abline(h = summary(apermacim.hk, abha = 0.05), cal = "red", tty=2)
dev.aff()
```